

生徒人権委員会フィールドワークに参加しました

昨年に続き今年も7月31日に、人権委員を中心に4名が「中予地区生徒人権委員フィールドワーク」に参加しました。他校の人権委員と一緒に合同バスに乗り、岡山県にあるハンセン病療養施設「国立療養所長島愛生園」を訪ねました。

ハンセン病を取り巻く問題については、本校でも学ぶ機会を設けてきましたが、みなさんはハンセン病について、あるいはハンセン病を取り巻く問題についてどのくらい理解しているでしょうか。

今回の人権デーは、今年フィールドワークに参加した生徒の感想を紹介します。

「知ることでなくす差別」 3年 男子

私が知る限り昔から問題視され続けている差別ですが、どうしたらなくなるのか一度は考えたことがあると思います。ですが何度考えても答えが出ないのも差別がなくなる理由としてあります。現在高校三年生である私ですが、この夏休みに差別をなくすことにつながる方法を聞いたのでその事を元に自分なりに考えてみました。

夏休み期間中、人権委員会に属している私は岡山県長島へ人権研修に参加しました。長島と言えばどのような研修かわかる人もいると思います。研修内容はハンセン病によって起きた人権侵害です。この研修に参加して、私は本当に良かったと感じています。

研修で印象に残ったことはいくつかあり、一つ目はハンセン病の恐ろしさです。研修の中では歴史館を回り、ハンセン病とはなにかまずはそこから学びました。ハンセン病自体修正された呼び方であり、昔はライ病と呼ばれていた、そしてそれは差別的な呼び方であったことを知りました。名前から差別的な扱いを受けており、国民にそれが根付いていたのかと衝撃を受けました。症状は皮膚と神経から発症し、見た目からは皮膚が変色し、内部では神経が麻痺し痛覚を失うそうです。症状からかなり負担がある病気ですが、一番の原因は感染症であることにありました。確かにこのような症状の病気、私も怖いと感じるし、避けてしまうかもしれません。ですがこのハンセン病は感染力がとても弱いらしく、無知から悪化した病気ともいえると思います。私は無知から広まった国全体の差別ともいえるハンセン病を学ぶことが今回の研修の意義なのだと解釈しました。

二つ目は長島の人の生活です。長島に着いて最初に行ったのは昼食であり、休憩中に私は島の中を散歩しました。初めの印象は海が近いすごくきれいな街、こんな島住んでみたいとさえ思いました。しかし散歩途中見つけた小島の鳥居を見てみると先生から告げられた言葉が印象に残りました。「この島の人は隔離されていたから島の中で様々な宗教を信仰していたんだよ」と、島に來たてで意味が分からなかった私も研修が進む中で理解できました。島で隔離されていた方たちは他にもスポーツや演劇、バンドを嗜んでおり闘病中でもやりたいことをやる、人間としての強さを感じました。ですが一方では自殺や脱走する人も多かったと聞き、島での生活の苦しさも感じました。

そして三つ目は研修最後の学芸員さんのお話です。ここで聞いた言葉は深く私の心に残り、私が聞いた差別をなくす方法です。それは「知る事」でした。学芸員さんにこのことを言われたとき、自分は差別の感情を持っていませんでした。それは逆に、ハンセン病のことを詳しくは分かっておらず、なんとなく「危険じゃない」ということは知っていたからかもしれません。過去の差別も、感染力の弱さや治療法を知っていればここまでにはなっていないと思います。これからは、正しく詳しく知り、必要な知識を広められるような人になりたいと感じました。

今回の研修では人権を学ぶ中で本当に大事なことを学びました。研修から学んだことをもとに、私は差別をなくすには知り、確かめ、伝えることが大切なのだと考えました。そしてこれからの人生、これらの事が出来るようになりたいです。

